

## 第 11 回分子予防環境医学研究会の開催にあたって

2012 年 1 月 27 日

第 11 回分子予防環境医学研究会  
会長 大槻 剛巳  
(川崎医科大学 衛生学)



この度、第 11 回分子予防環境医学研究会を主催することになりました川崎医科大学衛生学 大槻剛巳でございます。

2011 年は東日本大震災による地震と津波。その被害は甚大であり、それでも復興に向けた報道は伝わってまいります。被災地の皆様には、本当に苦しい日々を過ごされていらっしゃると思います。それでも「がんばろう日本」、国中の誰もが、気持ちを東北に向けることで、少しでも気持ちのパワーが復興のために届けばと、願ってやみません。

さらに、原発事故によって、我が国は今後のエネルギーに関して、どのような決意の元で向かえば良いのか。一人ひとりが、現実の生活と、しかし本来なら想定しなければならなかったことを「想定外」で済ませてしまっていたことの悔恨……それは即ち、やはり人のやっていることの限界を表すのかも知れませんが……の中で、次世代やさらに将来の世代に対して、安全で確実なものをどのように残していくことが出来るのかということに、正面から対峙しなければならないのでしょう。

そんな中で、我々は健康の不都合に苦しまれる方々に対して、分子生物学などを含む最先端の医科学技術と、環境と遺伝子への洞察に富んだ視点から、将来に向けて、少しでも福音を供与出来る発見を蓄積することを命題として、日々精進するとともに、ここに第 11 回分子予防環境医学研究会を催し、個々の研究者や研究室の成果を共有し、討論することによって、新たな健康の地平を目指してゆきたいと考えております。

そんな想いを込めて、今回の研究会はテーマを「春告鳥が啼く頃には……一分子予防環境医学の明日を見つめて一」とさせて頂きました。

冬の倉敷は、それでも冷たい風は吹いていますが、心にそっと微笑みかける温かい陽射しにも恵まれております。大型古墳群の吉備路、さらに波濤が煌めく瀬戸内海、豊穡の山河や海が運ぶ美味にも溢れております。

会員の皆様、そして会員外の皆様も、是非、ふるってご参集頂き、分子予防環境医の明日を見つめながら、遠くで啼き始めているであろう春告鳥の囀りに耳を澄ませてみませんか？

# 目次

---

## 第 11 回分子予防環境医学研究会の開催にあたって

お知らせ	3
会場までのアクセス	4
会場案内	7
日程表	8
プログラム	9
謝辞	15

# お知らせ

## 参加者のみなさまへ

1. 参加受付は、1月27日（金）午前9時より、倉敷市民会館2階大会議室前の学会受付にて行います。
2. 学術集会参加費は以下のように申し受けます。当日、会場受付にて参加費を現金でお支払い下さい。

参加費：一般 3,000 円，学生 1,500 円

1月27日に懇親会を設けます。当日受付にて懇親会参加の旨、お申し出下さった上で、以下の懇親会費をお支払い下さい。

懇親会費：一般 5,000 円，学生 2,000 円

3. 会期中、会場では名札を胸にご提示ください。

## 総会

1月27日（金）15:15～15:45 研究会会場

## 懇親会

1月27日（金）18:30～ つね家

〒710-0054 岡山県倉敷市本町 3-12 電話 086-427-7111

## 座長の皆様へ

ご担当のセッションの開始予定時刻の10分前までに、会場内前方（舞台に向かって右側）の次座長席にお着きください。一般演題は、発表時間11分、質疑応答4分です。活発な討論となりますように、お取り計らいください。また研究会の運営が滞りなく進みます様、ご配慮をお願いいたします。

## 演者の皆様へ

1. 一般演題は、発表時間11分（終了時間の1分前に黄ランプ、終了時間に赤ランプが点灯し警告音を鳴らします。時間厳守をお願いいたします）、質疑応答4分です。時間厳守をお願いいたします。
2. 発表は、MS Powerpoint の作成データでの PC プレゼンテーションのみといたします。
3. 作製に資料する Powerpoint は、Windows 版をお願いいたします（2010 まで大丈夫です）。会場には Macintosh のご用意はありません。Windows 環境で動作を確認されたデータを USB などでご持参ください。

4. Macintosh の方で、ご自身でご持参された PC をご使用になられることも可能です。PC 受付にてその旨、お申し出ください。
5. 動画などが発表に含まれる場合、フォルダーの構築等にご留意ください。また、その場合には、受付にお申し出ください。
6. 発表スライドの枚数に制限はございませんが、発表時間を十分にご配慮ください。
7. ご発表データの受付を済ませ、発表時間の 10 分前には会場内前方（舞台に向かって左側）の次演者席にお着きください。

## 会場までのアクセス

### 倉敷駅へのアクセス

#### ■JR■

山陽新幹線岡山駅で下車→山陽本線下りもしくは伯備線下りで 4 駅目（快速マリンライナー（本数は少ない）の場合は 1 駅目）約 16 分です。320 円。昼間はほぼ 5～6 本/時間で運行されています。JR 西日本管内で ICOCA 利用可能です。また Suica, TOICA も相互利用をしています。

#### ■航空機■

岡山空港からリムジンバスで倉敷駅北口行きが出ています。到着便に合わせて出ていると思います。1100 円です。リムジンバスでは、岡山駅行きもあり、岡山駅で JR に乗り換えでも料金も時間もあまり変わりありません（岡山駅での乗り継ぎの手間の分、少し岡山駅経由の方が安いくらいです）。

タクシーは、岡山駅まで 4000 円前後、倉敷駅までは 7000 円前後です。

#### ★倉敷駅から、会場（倉敷市民会館）まで

倉敷市民会館：徒歩で 15-20 分、タクシーで 5-8 分程度です。

少しお時間に余裕を持たれて、美観地区などを散策しつつ、ご来場いただけますと幸いです。

## JR 倉敷駅から会場まで

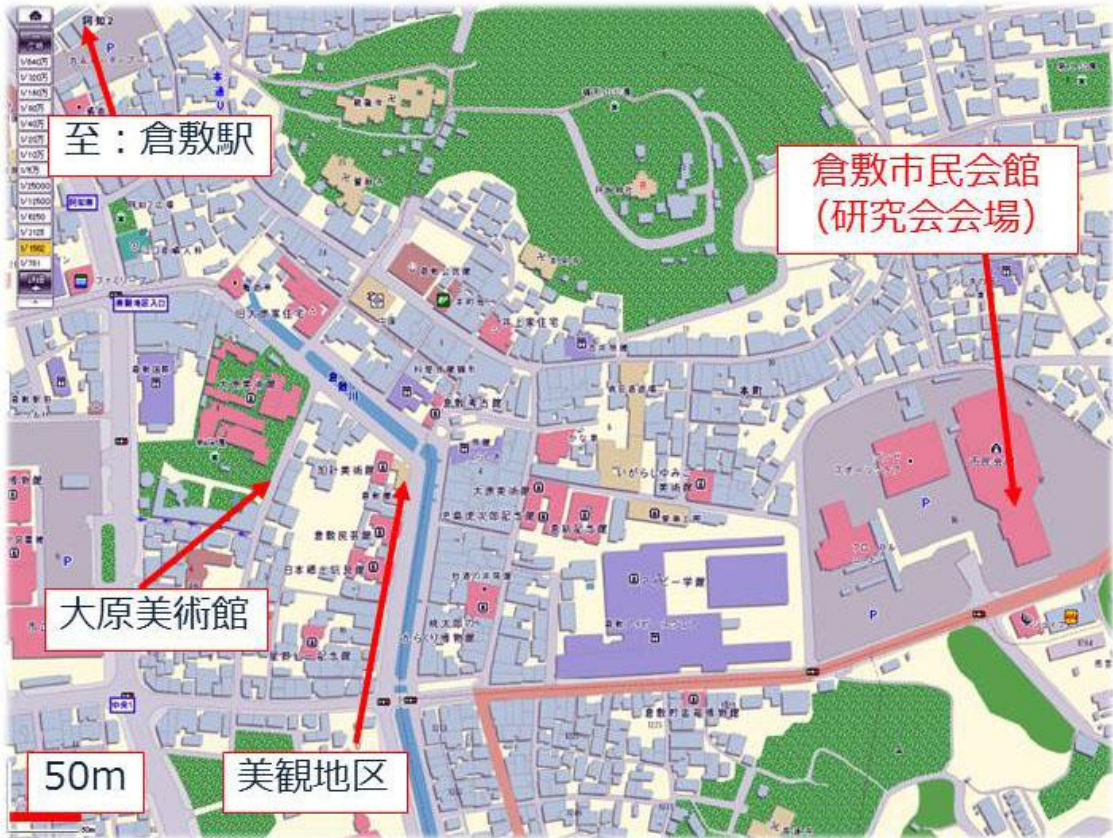


倉敷駅南口から正面の大通り、もしくは一本東よりのアーケードの商店街を抜けて、美観地区へ向かってください。

地図で丸く囲っている辺りが、「美観地区」と呼ばれている古い街並みが残っている地区です。そこに大原美術館もあります。

そこを抜けて、倉敷アイビースクエア（宿泊施設ですが、その他、いくつかのテナントや美術館なども入っています）を、抜けてもらえれば、会場の倉敷市民会館です。





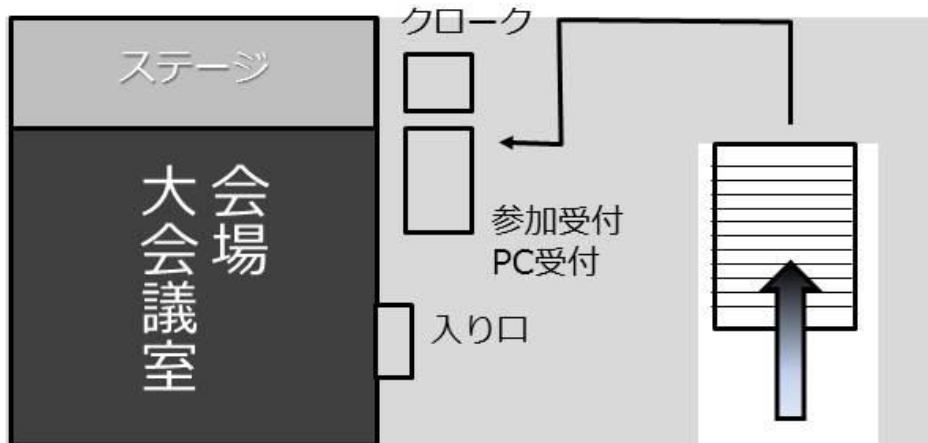
会場案内



倉敷市民会館は  
地図の東側（右  
側）が正面玄関  
です。



正面玄関から入館して  
いただきますと正面に階段が  
ありますので、そのまま二階  
にお上がりください。



階段を上がられて二階、左手側が会場の大会議室で、受付等を  
設置いたします。受付で参加費等の手続きをお願いいたします。

# 日 程 表

1月27日(金)		1月28日(土)	
9:00	受付開始	9:00	受付開始
9:35	開会挨拶	9:30	一般演題 生活習慣病 座長：加藤貴彦
9:45	一般演題 環境応答・生体防御1 座長：熊谷嘉人	10:45	休憩
10:45	休憩	11:00	特別講演 固形がんに対する遺伝子治療の最前線 「REIC 遺伝子医薬を中心として」 座長：大槻剛巳
11:00	一般演題 環境応答・生体防御2 座長：豊國伸哉	12:00	昼休憩
12:00	昼休憩	13:15	一般演題 環境応答・生体防御5 座長：香山不二雄
13:30	一般演題 環境応答・生体防御3 座長：橋本真一	14:30	休憩
14:15	一般演題 環境応答・生体防御4 座長：加藤昌志	14:45	一般演題 癌1 座長：曾和義広
15:00	休憩	15:30	一般演題 癌2 座長：西村泰光
15:15	総会	16:15	閉会の挨拶
15:45	シンポジウム DNA 損傷への応答メカニズムと疾患 座長：高田穰，大槻剛巳	16:20	
18:00	一日目終了 懇親会場へ移動		
18:30	懇親会 つね家		
20:30			



# プログラム

1月27日（金）

9:00 受付開始

9:35～9:45 開会の挨拶

会長 大槻剛巳

9:45～10:45 環境応答・生体防御 1

座長 熊谷嘉人（筑波大学）

## 1. ダイオキシン曝露による水腎症発症の分子メカニズム

○川口達也<sup>1)</sup>、吉岡亘<sup>1)</sup>、相田圭子<sup>1)</sup>、藤澤希望<sup>1)</sup>、大迫誠一郎<sup>1)</sup>、原俊太郎<sup>2)</sup>、  
遠山千春<sup>1)</sup>

- 1) 東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 健康環境医工学部門  
2) 昭和大学薬学部衛生化学教室

## 2. 胎生期ダイオキシン曝露による仔のエピゲノム変化の解析

○青木礼恵、栗田尚佳、遠山千春、大迫誠一郎

東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター 健康環境医工学部門

## 3. 好中球は走化性因子によって遊走パターンが異なる

○山内 明、小日置佳世子、栗林 太

川崎医科大学大学生化学教室

## 4. 抗原特異的メモリーCD4<sup>+</sup>T細胞におけるゲノムワイド遺伝子発現とDNAメチル化解析

○橋本真一<sup>1,2)</sup>、生越克己<sup>1)</sup>、森下真一<sup>2)</sup>、松島綱治<sup>1)</sup>

1) 東大院医・分子予防医学、2) 東大院・新領域創成科学

10:45～11:00 休憩

11:00～12:00 環境応答・生体防御 2

座長 豊國伸哉（名古屋大学）

## 5. Molecular network of aerosol, environment and health

○Hong LUO<sup>1,2)</sup>、Wang H<sup>2)</sup>、Kurozawa Y<sup>1)</sup>、Kashiwagi A<sup>1)</sup>、Otani S<sup>1)</sup>、Hosodo H<sup>1)</sup>、  
Okamoto M<sup>1)</sup>、Onishi K<sup>1)</sup>、Mu H<sup>1)</sup>、Mitani S<sup>1)</sup>、Takayama H<sup>1)</sup>、Yamamoto H<sup>3)</sup>、  
Shibahara T<sup>1)</sup>、Hiji Y<sup>1)</sup>、Nose T<sup>1)</sup>

1) Faculty of Medicine, Tottori University, 2) Chinese Academy of Medical Sciences and Peking Union Medical College, Beijing, China, 3) Toyama University

## 6. ラット脳内モノアミンレベルと海馬神経栄養因子の発現における1-ブロモプロパン曝露の影響

○Lingyi Zhang<sup>1)</sup>、Taku Nagai<sup>2)</sup>、Kiyofumi Yamada<sup>2)</sup>、Sahoko Ichihara<sup>3)</sup>、Kaviarasan Suburamanian<sup>1)</sup>、Zhenlie Huang<sup>1)</sup>、Sahabudeen Sheik Mohideen<sup>1)</sup>、Aku Ichihara<sup>1)</sup>

1) Department of Occupational and Environmental Health, University Graduate School of Medicine, 2) Department of Clinical Pharmacy, Nagoya University Graduate School of Medicine, 3) Mie University Graduate School of Regional Innovation Studies

7. Proteomic Identification of Carbonylated Proteins in F344 Rat Hippocampus after 1-Bromopropane Exposure

○Zhenlie Huang<sup>1,2)</sup>, Aoko Ichihara<sup>3)</sup>, Hinji Oikawa<sup>4)</sup>, Jie Chang<sup>1)</sup>, Ingyi Zhang<sup>1)</sup>, Kaviarasan Subramanian<sup>1)</sup>, Ahabudeen Sheik Mohideen<sup>1)</sup> and Gaku Ichihara<sup>1)</sup>  
1)Nagoya University Graduate School of Medicine; 2)Guangdong Prevention and Treatment Center for Occupational Diseases, Guangzhou, P. R. China; 3)Mie University Graduate School of Regional Innovation Studies; and 4)Mie University Graduate School of Medicine

8. Exposure to 1-bromopropane induces activation of astrocyte and degeneration of neuronal cells in rat cerebellum

○Sahabudeen Sheik Mohideen<sup>1)</sup>, Sahoko Ichihara<sup>2)</sup>, Kaviarasan Subramanian<sup>1)</sup>, Zhenlie Huang<sup>1)</sup>, Junzoh Kitoh<sup>3)</sup> and Gaku Ichihara<sup>1)</sup>  
1)Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya University, 2)Graduate School of Innovation Studies, Mie University, 3)Emeritus Professor, Nagoya University

12:00~13:30 昼休憩

13:30~14:15 環境応答・生体防御3

座長 橋本真一 (東京大学)

9. プロスタグランジン代謝物 15d-PGJ2 による ATM 活性化機構

○塩谷裕司<sup>1),2)</sup>, 小林昌彦<sup>2)</sup>, 松郷誠一<sup>3)</sup>, 山本健一<sup>2)</sup>  
1) 金沢大学自然研究科物質工学専攻, 2) 金沢大学がん進展制御研究所, 3) 金沢大学理工研究域自然システム学系

10. メダカを用いた PAH 代謝における CYP1A 機能解析

○谷口善仁, 吉岡範幸, 大野薫, 大前和幸  
慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

11. 血清中 PCB 濃度・IL8・喘息児との関係

○辻真弓<sup>1)2)</sup>, Christoph F.A. Vogel<sup>2)</sup>, 川本俊弘<sup>1)</sup>, 郡山千早<sup>3)</sup>, 秋葉澄泊<sup>3)</sup>, 田中政幸<sup>1)</sup>, Hsu-Sheng Yu<sup>1)</sup>, Fumio Matsumura<sup>2)</sup>  
1) 産業医科大学 衛生学, 2) Department of Environmental Toxicology, University of California, Davis. 3) 鹿児島大大学院医歯学総合研究科 疫学予防医学

14:15~15:00 環境応答・生体防御4

座長 加藤昌志 (中部大学)

12. バリウムはヒ素によって誘導されるヒト扁平上皮癌の細胞死を抑制する

○矢嶋伊知朗<sup>1)</sup>, 上村規行<sup>1)</sup>, Saika Nizam<sup>2)</sup>, Md. Khalequzzaman<sup>2)</sup>, Nguyen D. Thang<sup>1)</sup>, 熊坂真由子<sup>1)</sup>, 大神信孝<sup>1)</sup>, Anwarul A. Akhand<sup>3)</sup>, Hossain U. Shekhar<sup>4)</sup>, 那須民江<sup>2)</sup>, 加藤昌志<sup>1)</sup>  
1)中部大学・生命健康, 2)名古屋大学・医, Departments of 3)Genetic Engineering and Biotechnology and 4)Biochemistry and Molecular Biology, University of Dhaka

### 13. 環境中微量化学物質の健康影響に関する分子疫学研究

○加藤貴彦<sup>1)</sup>, 崔笑怡<sup>1)</sup>, 盧溪<sup>1)</sup>, 日浦瑞枝<sup>1)</sup>, 宮崎航<sup>1)</sup>, 大森久光<sup>1)</sup>, 藤森サエ子<sup>1)</sup>, 櫻田尚紀<sup>2)</sup>

1)熊本大学大学院生命科学研究部 公衆衛生・医療科学, 2)国立保健医療科学院 生活環境研究部

### 14. メチル水銀の新奇リスク軽減因子としてのH<sub>2</sub>S産生酵素

○熊谷嘉人, 吉田映子, 外山喬士, 新開泰弘  
筑波大学大学院人間総合科学研究科生命システム医学専攻

15:00~15:15 休憩

15:15~15:45 分子予防環境医学研究会 総会

15:45~18:00 シンポジウム

『DNA損傷への応答メカニズムと疾患』

座長 高田 穰 (京都大学), 大槻剛巳 (川崎医科大学)

#### S1. DNA損傷応答の分子機構とその欠損病態

○高田 穰  
京都大学 放射線生物研究センター 晩発効果研究部門 DNA損傷シグナル研究分野

#### S2. DNA二重鎖切断の修復機構と放射線発がん

○田内広<sup>1)</sup>, 大原麻希<sup>1)</sup>, 坂田耕一<sup>2)</sup>, 染谷正則<sup>2)</sup>, 飯島健太<sup>1)</sup>, 小松賢志<sup>3)</sup>  
1) 茨城大学理学部・生物科学, 2) 札幌医科大学医学部・放射線医学, 3) 京都大学放射線生物研究センター

#### S3. 発がんとがん治療に影響を与えるクロマチンリモデリング遺伝子

○河野隆志  
国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野

18:30~20:30 懇親会

つね家 〒710-0054 岡山県倉敷市本町 3-12 電話 086-427-7111

1月28日(土)

9:00 受付開始

9:30~10:45 生活習慣病

座長 加藤貴彦(熊本大学)

15. ALS様運動神経障害を伴う新規脊髄小脳変性症(SCA36)の原因遺伝子の発見

○小林果<sup>1)</sup>, 阿部康二<sup>2)</sup>, 松浦徹<sup>2)</sup>, 池田佳生<sup>2)</sup>, 人見敏明<sup>1)</sup>, 明地雄司<sup>2)</sup>, 土生敏行<sup>3)</sup>, 劉万洋<sup>1)</sup>, 奥田裕子<sup>1)</sup>, 小泉昭夫<sup>1)</sup>

1) 京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野, 2) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経内科学, 3) 京都大学放射線生物研究センター 放射線システム生物学研究部門

16. もやもや病感受性遺伝子 *mysterin* の同定と血管発生への関与

○人見敏明, 劉万洋, 小林果, 原田浩二, 小泉昭夫  
京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野

17. アルデヒド脱水素酵素2の遺伝的変異が生活習慣病の発症・進展に及ぼす影響

○中川和子<sup>1,2)</sup>, 鬼木健太郎<sup>1)</sup>, 守田和憲<sup>1)</sup>, 宮川春奈<sup>1)</sup>, 坂田美咲<sup>1)</sup>, 梶原彩文<sup>1)</sup>, 内屋敷佳弘<sup>1)</sup>, 宮崎裕子<sup>1)</sup>, 北愛矢菜<sup>1)</sup>, 猿渡淳二<sup>1)</sup>, 陣内秀昭<sup>3)</sup>, 掃本誠治<sup>4)</sup>, 小川久雄<sup>4)</sup>, 三原修一<sup>5)</sup>, 緒方康博<sup>5)</sup>

1) 熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療学分野, 2) 熊本大学薬学部附属育薬フロンティアセンター, 3) 医療法人社団陣内会陣内病院, 4) 熊本大学大学院生命科学研究部循環器病態学, 5) 日本赤十字社熊本健康管理センター

18. グルタチオンS転移酵素の遺伝的変異が生活習慣病の発症・進展に及ぼす影響

○鬼木健太郎<sup>1)</sup>, 宮川春奈<sup>1)</sup>, 守田和憲<sup>1)</sup>, 梶原彩文<sup>1)</sup>, 吉森友紀<sup>1)</sup>, 坂田美咲<sup>1)</sup>, 内屋敷佳弘<sup>1)</sup>, 宮崎裕子<sup>1)</sup>, 北愛矢菜<sup>1)</sup>, 川瀧正容<sup>1)</sup>, 猿渡淳二<sup>1)</sup>, 古郡規雄<sup>2)</sup>, 陣内秀昭<sup>3)</sup>, 掃本誠治<sup>4)</sup>, 小川久雄<sup>4)</sup>, 三原修一<sup>5)</sup>, 緒方康博<sup>5)</sup>, 中川和子<sup>1, 6)</sup>

1) 熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療学分野, 2) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座, 3) 医療法人社団陣内会陣内病院, 4) 熊本大学大学院生命科学研究部循環器病態学, 5) 日本赤十字社熊本健康管理センター, 6) 熊本大学薬学部附属育薬フロンティアセンター

19. 高血糖状態における血小板リン酸化タンパク質の同定

○紅林真理恵<sup>1)</sup>, 市原佐保子<sup>1)</sup>, 竹下享典<sup>2)</sup>, 常杰<sup>3)</sup>, 市原学<sup>3)</sup>, 及川伸二<sup>4)</sup>

1) 三重大学大学院地域イノベーション学研究科, 2) 名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学, 3) 名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学, 4) 三重大学大学院医学系研究科分子環境医学

10:45~11:00 休憩



11:00~12:00 特別講演

『固形がんに対する遺伝子治療の最前線「REIC 遺伝子医薬を中心として」』

座長 大槻剛巳（川崎医科大学）

公文裕巳  
岡山大学泌尿器科

12:00~13:15 昼休憩

13:15~14:30 環境応答・生体防御 5

座長 香山不二雄（自治医科大学）

20. **ダイオキシンの胎児期・授乳期曝露が脳内モノアミン系に及ぼす影響**

○保坂亮太<sup>1),2)</sup>, 凌文婷<sup>2)</sup>, 薮島旭<sup>2)</sup>, 張艶<sup>2)</sup>, 高橋勇二<sup>1)</sup>, 遠山千春<sup>2)</sup>, 掛山正心<sup>2)</sup>

1) 東京薬科大学 生命科学研究科 環境ストレス生理学研究室

2) 東京大学 医学系研究科 疾患生命工学センター 健康環境医工学部門

21. **ダイオキシンまたはビスフェノール A 曝露によるマウス海馬のニューロン微細形態への影響**

○松吉智瑛里, 木村栄輝, 掛山正心, 遠山千春

東京大学大学院医学系研究科・疾患生命工学センター健康環境医工学部門

22. **老化促進マウスを用いた骨密度減少モデルの作成**

○勝山博信<sup>1)</sup>, 伏見滋子<sup>1)</sup>, 山根一和<sup>1)</sup>, 日根野谷一<sup>1)</sup>, 秋山祐治<sup>2)</sup>, 富田正文<sup>3)</sup>,

奥山敏子<sup>3)</sup>, 勝山碧<sup>4)</sup>, 西條清史<sup>4)</sup>

川崎医科大学<sup>1)</sup>公衆衛生学,<sup>2)</sup>医療資料学,<sup>3)</sup>医用中毒学,<sup>4)</sup>金沢大学医薬保健系環境生態分子応答学

23. **Monitoring of *in vivo* Mouse Brain Using Two-Photon Microscope Under Visual Related Task for Neurotoxicological Analyses**

○Aya Okada, Masaki Kakeyama, Chiharu Tohyama

Laboratory of Environmental Health Sciences, Center for Disease Biology and Integrative Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo

24. **スギ花粉アレルゲンに結合する糖タンパク質糖鎖の構造特性と植物抗原性糖鎖による Th2 型免疫応答の抑制活性**

○前田恵<sup>1),3)</sup>, 眞野彩<sup>2)</sup>, 大槻剛巳<sup>3)</sup>, 岡野光博<sup>4)</sup>, 木村吉伸<sup>1)</sup>

1) 岡山大学大学院自然科学研究科バイオサイエンス専攻, 2) 岡山大学農学部,

3) 川崎医科大学衛生学, 4) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学

14:30~14:45 休憩

14:45~15:30 癌1

座長 曾和義広 (京都府立医科大学)

25. 肺扁平上皮癌モデルにおける気管支肺胞幹細胞の関与

○鰐淵英機, 山野荘太郎

大阪市立大学大学院医学研究科 都市環境病理学

26. NK 細胞機能と血漿中サイトカイン濃度解析に基づく中皮腫診断指標構築の試み

○西村泰光<sup>1)</sup>, 武井直子<sup>1)</sup>, 前田恵<sup>2)</sup>, 松崎秀紀<sup>1)</sup>, 李順姫<sup>1)</sup>, 岸本卓巳<sup>3)</sup>, 大槻剛巳<sup>1)</sup>

1) 川崎医科大学・衛生学, 2) 岡山大学大学院・自然科学研究科・バイオサイエンス専攻・生物機能化学講座・糖鎖機能化学研究室, 3) 岡山労災病院

27. 多層カーボンナノチューブの中皮細胞傷害性・発がん性にはその直径と剛性が重要な因子である

○豊國伸哉<sup>1)</sup>, 永井裕崇<sup>1)</sup>, 岡崎泰昌<sup>1)</sup>, 周珊瑚<sup>1)</sup>, 山下依子<sup>1)</sup>, 赤塚慎也<sup>1)</sup>, 山下享子<sup>1)</sup>, 市原学<sup>2)</sup>, 高橋隆<sup>3)</sup>

名古屋大学大学院医学系研究科<sup>1)</sup> 生体反応病理学, <sup>2)</sup> 環境労働衛生学, <sup>3)</sup> 分子腫瘍学

15:30~16:15 癌2

座長 西村泰光 (川崎医科大学)

28. 酪酸菌による好中球からの TRAIL 放出促進機構とその抗腫瘍効果の検討

○神農雅秀<sup>1)2)</sup>, 堀中真野<sup>1)</sup>, 三木恒治<sup>2)</sup>, 酒井敏行<sup>1)</sup>

1) 京都府立医科大学 分子標的癌予防医学, 2) 京都府立医科大学 泌尿器科学

29. 抗肥満薬 orlistat はホルモン不応性前立腺癌における TRAIL の効果を増強する

藤原淳<sup>1) 2)</sup>, ○曾和義広<sup>1)</sup>, 堀中真野<sup>1)</sup>, 小山真<sup>1)</sup>, 若田未来<sup>1)</sup>, 三木恒治<sup>2)</sup>, 酒井敏行<sup>1)</sup>

1) 京都府立医科大学大学院 分子標的癌予防医学

2) 京都府立医科大学大学院 泌尿器外科学

30. ショウガ由来成分デヒドロジゲロンによる細胞増殖抑制効果

○与五沢真吾<sup>1)</sup>, 山田恭正<sup>2)</sup>, 安田周祐<sup>1)</sup>, 瀧澤香織<sup>1)</sup>, 孫琦<sup>1)</sup>, 曾和義広<sup>1)</sup>, 酒井敏行<sup>1)</sup>

1) 京都府立医科大学・分子標的癌予防医学

2) 同志社女子大学・生活科学・食物栄養科学

16:15~16:20 開会の挨拶

会長 大槻剛巳

## 謝 辞

第 11 回分子予防環境医学研究会の運営の一部は、寄付による援助を受けております。開催に際しまして、多大なご支援とご協力を賜りました各協賛企業・団体に深甚なる感謝の意を表します。

第 11 回分子予防環境医学研究会 会長  
川崎医科大学 衛生学 大槻剛巳  
同 事務局一同

### 研究集会助成

公益財団法人 武田科学振興財団

財団法人 両備てい園記念財団

財団法人 八雲環境科学振興財団

### 協賛：寄付広告等

株式会社ハウジング山陽

医療法人社団 清和会 笠岡第一病院

医療法人社団 神田会木曾病院

医療法人 学校法人 福嶋いるかの家グループ

おかやまメディカルイノベーションセンター (OMIC)

ブリストル・マイヤーズ株式会社

セルジーン株式会社

桃太郎源株式会社

株式会社 大熊

株式会社 メッド

川崎医科大学同窓会